



04



05

ています。この景観を守るため、市も定期的に湖底の清掃、水質検査などを行っています。

大分市と縁が深い「古琴台」にも三日月に似た形状から名付けられた『月湖』という美しい湖があります。コンサートホールと劇場もあり、文化芸術エリアの潤いの場ですが、以前は水質環境が悪く、あまり人が近寄らない湖だったそう。湖の水をすべて抜き、湖底をくまなく掃除するという一掃作戦で、現在の美しい姿に生まれ変わったようです。

今最もホットな水辺のパフォーマンスは、360度の光のショーを眺めながら

の「長江クルーズ」。夜になるとライトアップされる兩岸の高層ビル群の中にある『武漢緑地センタービル』も、建設途中ながら同様に映像アトラクションを映し出し、その様子はまさに武漢市全体に漂う躍動や活気、力強さの象徴のようにも感じられました。

環境に優しい都市づくりへ

「大分市へ派遣した研修生は、大気の観測法や污水处理の技術、工場への立ち入り検査の方法と法整備、環境保護の技術や意識などを学び、帰国後は技術者や専門家、各部署の

リーダーになって活躍しています」とは『武漢市生態環境局』の処長・袁新慧さん。「武漢市は、環境や生態に優しい都市を目標にしています。排気ガスの排出量が多い市営バスを天然ガスと電気エネルギーに替え、市の至るところに植栽した木々も大気の浄化作用を高めています。もっと美しい街を目指していますので、大分の皆さんにもっと武漢に来てほしいですね」とも。大分市での研修経験がある各部署のリーダー5人も同席し、研修の思い出や成果、大分市の関係施設や部署への想いを伝えてくれました。

01/ライトアップされた高層ビル群（長江クルーズ船より）  
 02/月湖 03/武漢市生態環境局 処長 袁新慧さん  
 04/東湖 05/武漢の夏の風物詩 ハスの実の露店販売



01

## 「百湖の都市」 武漢。 街の個性と 繁栄に 欠かせない 水のこと。

水域の広さがもたらすもの

「武漢は蒸し暑いでしょう」。訪問した先々で何度も聞いたフレーズです。武漢市の総面積のうち、川を含めた水面面積は2117.8平方キロメートル。市内の4分の1を占めていて、人口100万人を超える都市では1人当たりの水面面積世界一とのこと。いかに、水と共に生きている街なのか分かります。長江と漢水が合流し、市内の至るところに湖があり、貿易や産業など街の繁栄に欠かせないものであると同時に、厳しい高温多湿をもたらしているのは、水の都の個性であり、悩みでもあるようです。

### 新たな魅力を生む水質の改善

150以上の湖の中で、最も市民に愛されているのは武漢市南東部にある『東湖』。湖とその周りに整備された公園を合わせた総面積は88平方キロメートル（野津原地区全域とほぼ同じ）で、都会にある湖としては中国最大の広さを誇っています。湖面には渡し船が行き来し、整備された歩道では、風景の美しさに魅了されながら散策する人々の姿も。湖畔にはハスが群生し、植栽された花々、木々など武漢の夏を彩る自然にあふれ、都会のオアシスとなつ



03



02